市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会（第3回）

10月23日（金）午後7時～午後8時11分　小野上公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
1	小野上地区の若い世代の中には、小野上地区には学童もなく、児童も少ないから教育環境が悪いと考える人もいるようです。「地域から学校が無くなると、若い世代の流出や過疎化を決定づける」という意見があるようですが、長尾小学校と統合して教育環境を整えることで、安心する若い世代もいると思います。 予算が許すのであれば、前倒ししてでも早く再配置の計画を進めていただきたいです。	今回の説明会において、基本計画の策定期間を変更させていただくご説明をしましたが、資料1・14ページ「4検討の経過と今後の方針について」（3）今後の方針に記載しましたとおり、早期統合の要望への対応として、計画の策定と並行して、早期に進めていけるかどうかを含めて検討いたします。
2	これまでの説明会で、適正規模・適正配置の基準となる通学時間は、通学方法を問わず、小学生で40分と説明を受けました。この基準については、市内の地域によって環境の違い（高低差など）があるので一律40分とするのは乱暴だと考えています。この基準の考え方、設定の理由を聞きたいです。また、基本計画策定期間の変更に伴って、この基準を見直す考えはありますか。 地域の意見として「学校を残せないか」というものと、「早く統廃合を進めてほしい」というものと、両方の考えがある中で、「子どもを守るために通学時間が短くなるようケアする」となれば、再配置に賛成の意見が出てくると思います。	小学生の通学時間を概ね40分以内にした理由として、国の手引では、通学時間の目安を、通学手段を問わず、小学生でも中学生でも概ね60分以内と示し、各自治体の実態に即して、それぞれの自治体で決めるものとしています。 文部科学省が実施した調査によれば、通学時間が40分を越えると、子どもが通学に若干のストレスを感じる可能性が示唆されているものの、60分までの間では顕著な問題が見られず、国の示す目安に一定の妥当性が示されています。 これらを考慮し、また、小学生の体力等の発達状況、地勢的な実情を考慮して、本市では、小学生の通学時間の基準を国が示す基準よりも短い時間となる「概ね40分以内」としました。 なお、中学生については、1年生と3年生で幅があることは考慮しておりますが、高校進学時には、より長時間かけて通学することも考えられ、小学生よりも体力的に成長していることから、国の示す「概ね60分以内」を基準としているものです。 これまでの説明会や学校運営協議会の委員の皆さんとの懇談会等でのご意見からも、小学生の通学時間の基準（概ね40分以内）をすぐに見直す予定はありません。ただし、子どもの通学に対する負担をどのように軽減できるかという視点から、地理的な要因を踏まえた適正配置を検討したいとは考えています。
3	これまでの説明会等の中で、施設分離型の小中一貫校の設置についての意見がありましたか。	施設分離型の小中一貫校の設置に対する意見は、これまでの説明会等での意見やアンケートの回答の中にはありませんでした。
4	市がどのような形で適正規模・適正配置を進めたいのかを保護者に説明して、保護者からの理解を得た上でアンケートを実施すると、その結果が内容のあるものになると思います。 多くの人が適正規模・適正配置の取組について理解できていない実態があると思うので、基本計画策定期間を延長したことは、有り難いことだと思います。	実際の保護者数からすれば、保護者アンケート（参考資料3）の回答数は多くありません。また、、保護者アンケートでは、「適正規模・適正配置を進める必要性がわからない」という回答の割合が、他のアンケート（参考資料1・2）に比べて多い結果でした。 基本計画策定期間の変更に伴い、学校に出向いての説明やこれから保護者になる方への周知等に努め、より一層市民の皆さんに適正規模・適正配置の内容をご理解いただいた上で協議できるようにしたいと考えています。
5	適正規模・適正配置によって学校の数が減った方が、市の財政には優しい形になるのでしょうか。 また、統廃合によって改築・新築をする場合に国の補助金が貰い易くなるということもあるのでしょうか。	一概に良し悪しをお答えするのは難しいですが、学校施設の維持管理費用がどの程度必要かという点で、市の財政的な持続可能性を考えています。 現状の小学校14校、中学校9校を全て維持するとして、施設の建て替え等を実施すると、概算で1，000億円以上の費用がかかり、期間も30年以上かかると想定されます。適正規模・適正配置により、学校数を減らす事で、建て替え費用や維持管理費用は削減できると考えています。 それに対して、適正規模・適正配置によるバス通学等の増加に伴い、通学バス等の運行費用が増加することも想定されます。 また、補助金の面で、適正な規模にするための統廃合を伴った施設改修は、補助率がやや有利になるということを含めて検討しています。
6	計画を早く進め、教育環境を一刻も早く改善してください。	－

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
7	スケジュールを見直す中で、素案の第1案、第2案を進める考えなのでしょうか。それとも、新たな案が示されるのでしょうか。今後の方向性を示すような説明会はいつ頃行われるのでしょうか。財政問題について詳しく聞くことができればと思います。	今後の計画策定スケジュールやその内容は、調整が済み次第、広報しぶかわ等で公表する予定です。 学校の適正規模・適正配置の検討を進める理由のひとつに「学校施設の老朽化」があります。施設の維持管理費等に関する財政面の検討は、「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針（本編）」でお示ししているとおりです（P17～「第4章あるべき学校の実現に向けた基本的な考え方」の「3　行財政的な視点」参照）。
8	最終回とのことでしたが、白紙に戻った感じがしてびっくりでした。アンケートの回答率を上げる事を考えてほしいです。幼児の親も関係するのでは。	学校の適正規模・適正配置の検討を進めるに当たっては、今後保護者になる可能性がある若い世代を含めた、幅広い世代の方への情報提供などが必要だと考えています。意見聴取の充実も含め、様々な方から引き続き意見を伺っていきます。
9	今回の時期の延期はどこに課題があったのか。	これまでの、地域説明会等の実施状況から、学校の適正規模・適正配置に対する議論の量や必要性等の理解、より広範囲の関係者への情報提供などが不足していることを課題と捉え、変更後のスケジュールの中でそれぞれ対応を充実させていきたいと考えています（説明会資料1・13ページ「検討の経過と今後の方針について」参照）。
10	小学生の登下校時間について、徒歩40分、バス40分の考えを再検討する考えはあるか。一律に考えるのは止めてください。	No. 2と同じ
11	これから20年～50年先を担う人材を育成することを考えると、理解、ディスカッションは時間をかけるべきだと思い、その様な動きありがとうございました。	―